

令和6年度 新しい生活様式に沿った二地域居住の推進実証調査

和歌山県
西牟婁郡すさみ町

「学びの環境づくり」の過程における二地域居住推進のための体系的な要件を実証調査する

《概要》

実施の目的

地域内の「学びの環境づくり」を行なう過程に二地域居住推進のための来訪・受入双方の要件を体系化する

実施概要

若年層のうち親子連れ世帯の継続的な来訪を促す一環として、地域一体となった受入基盤の整備を目指す

①来訪する都市圏の家族連れに6泊程度のモデルツアーを催行

すさみ町立保育園と小学校の1園1校双方で一時預かり制度・区域外就学制度を同時活用して未就学・就学児一体での教育環境整備を行なう

②空き家活用に関するワークショップの開催

地元住民向けの意識啓発の機会を設け、空き家課題の可視化を図る

調査体制



期待する効果

①「学びの環境づくり」

未就学児の一時預かり制度の活用かつ、区域外就学制度の同時利用で、**制度運用の弾力性や実施濃淡に差があるこれらの制度を、モニターツアーの実施により運用課題整理を行なう**

②「コミュニティ参加を創発する場づくり」

として、空き家が増加の一途を辿る町内の有志に対して空き家活用の事例共有とその意義や課題を来訪者のニーズとともに共有化するワークショップを実施

《主な調査内容》

実施結果

■ モデルツアーの催行

- 東京都下在住の2世帯6名が参加し、小学生1年生2名、年少児1名の3名の子どもを受け入れ
- 未就学児と小学生の同時受け入れにニーズがあることを確認。保護者も行動変化や成長の兆しを体感でき来訪側の満足を引き出した



1年生クラスに小学生2名が転入



放課後に地元事業者のもとで自然体験（写真は郷土料理作り）

■ 空き家活用ワークショップの開催

- 町内外から15名の参加。
- 空き家所有者に向けたサポートとして、「利活用方法の提案」と「修繕費補助」が参加者側から希望するニーズ上位に上がった

今後の課題

■ **課題1: 制度との接続: 欠席扱いにならず、且つ転校扱いにならない運用の体系化**
短期間での区域外就学制度は学校の事務手続きに負担がかかるため、制度そのものの簡素化または運用によつての改善が必要

■ **課題2: 長期滞在における受入側のフォロー充実化: 食事の手配**
働きながら滞在する都市生活者のニーズとして夕食手配の選択肢や充実度を上げることが満足度にも直結

■ **コミュニティ創発を促す上で、地域外の関係者をどのように巻き込むか?** 15名の参加者中、実際に空き家を所有している参加者は2名。空き家の所有者が町外に生活拠点がある場合、どのように連携していくかが課題